2021 年 8 月

森林塾青水　在宅講座　2021-3

自伐型林業について

日本で林業に従事する人は、1980 年代には約 15 万人いましたが、2015 年には、4 万 5 千人となり、65 歳以上の高齢化率は 25%にもなります。

資料：総務省「国勢調査」
注：高齢化率とは、総数に占める６５歳以上の割合
若年者率とは、総数に占める３５歳未満の割合

近年、自然の中でストレスのない仕事をしたい若い人たちも増えてきて、わずかですが、新規就労者も増えつつあります。　しかしながら、林業といえば、安い外材のせいで、国産材の値段が下がり、儲からない、3K の危険な仕事、など。就職先としてわざわざ林業を選択する人は多くありません。

なぜ、このようになってしまったのでしょうか？日本の国土の約 7 割が森林で、この森林率は、先進国の中ではフィンランドに次いで多い第 2 位になります。さらに、その森林の 4 割は、杉、桧の人工林です。戦後、先人が大変苦労して作ったこの人工林が、木材価格の低迷により放置され、花粉症の原因として忌み嫌われています。

現在、国の方針は、スギの人工林を 50 年サイクルで伐採し、また植林して、育て、50 年でまた伐採する政策で進めています。

そして、その作業をするのは、森林組合や民間の林業事業体が山主（森林所有者）から請け負って作業をおこないます。日本の場合、山主（森林所有者）と森林作業者を分離する政策がとられており、補助金も森林所有者個人ではなく森林組合などの事業体にしか払われない仕組みとなっています。

そのため、山主が請負事業者に任せて自分で管理していない森林は、請負事業者にとっては自分のものではないため、森林保全や環境保全といった長期的な目線よりも短期的な利益や効率化、簡略化を優先しがちになってしまいます。例えば、間伐の施業を行う場合、通常は、林内に作業道を作りながら、曲がった木や成長の悪い劣勢木を先に切っていきます。しかし、目先の利益だけを考えると良い木も切ってしまった方が、収益性は上がります。また、作業道は、補助金としてｍ単価で支払われるため、その場限りの道と考えれば、多少雑になっても効率的に早く作った方が、利益は上がります。そのため、一見間伐されて明るくなった人工林も、良い木が残っておらず、将来的に価値のない森になってしまっていることが、少なくありません。

また、50 年サイクルで回す林業では、最後には、すべての木を伐採する皆伐（かいばつ）をして木材を搬出します。その時、昔はワイヤーを山に張って集材していたのですが、近年は、山に重機で道を作りながら木を伐採して、搬出を行う手法が多くなりました。しかし、この手法によって、近年の温暖化による豪雨で、土砂崩れなどの災害を誘発するリスクが高まっています。実際に、令和元年の東日本豪雨災害や熊本を中心に甚大な被害をもたらした令和 2 年 7 月豪雨などで、この皆伐跡地がたくさん崩壊したという報告があります。（ＮＰＯ法人自伐型林業推進協会による調査）

特に木材を搬出する為に大型重機で荒い作業道をつけたところからの崩壊や土砂流出が多く見られたとの事です。

さらに、全国的に増えているニホンジカの影響により、植林してもすべて食べられてしまい、再造林が困難になってきています。その中で、提案されてきたのが自伐型林業になります。

自伐型林業（じばつがたりんぎょう）とは、採算性と環境保全を高い次元で両立する持続的森林経営です。参入障壁が非常に低く、幅広い就労を実現します。今、国土の 7 割を占める山林を活用する「地方創生の鍵」として期待され、全国各地で広がっています。

具体的には、壊れない小さな道（幅 2.5m以内）を高密度で作り、2 割以下の間伐を長期間（100 年から 300 年）にわたり継続していく手法で、昔から奈良吉野などで行われてきた手法です。ある程度まで育った木は、野菜の様に肥料や農薬をやらなくても、勝手に成長していきます。間伐すると一見、山の木が減ってしまうように思いますが、10 年ごとの 2 割以下の間伐であれば、木の成長量の方が多くなるので、植えなくても山にある木の量は多くなります。これが、持続的に収益を上げていくことが出来る自伐型林業の最大のポイントになります。

徳島県那賀町

基本的には自分の山を自分で作業する事が前提ですが、少人数で山主から委託される形で、長い期間をかけていい森を作っていくスタイルも増えてきています。小さな重機（3ｔ）とチェーンソーとトラックがあれば十分作業が出来るので、初期投資も少なく参入する事がしやすいのも特徴です。専業というよりは副業的に、農業や観光業などと組み合わせる事により、より収益性が高い事業を行うことが出来ると思います。

みなかみ町では、平成 28 年よりこの自伐型林業の推進をしており、毎年研修をおこなっています。これまでに延べ 200 名以上が受講し、町内で活動するグループも 9 つあります。今年の 3 月には、このグ

ループを中心に「みなかみ町森林活用協議会」がたちあがりました。4 月からは自伐型林業を推進するために 2 名の地域おこし協力隊が着任しました。1 人は、前回の在宅講座でリトリートの紹介をしていただいた柳沼さんです。

自伐型林業の取り組みは、みなかみ町の目指すユネスコエコパークの理念とも合致しており、これからも新しい林業の取り組みに挑戦し続けています。

日本は、温帯地域で雨も多く、四季もあり、世界的に見ても良質な樹木が育つ恵まれた環境にあります。花粉症の元凶として嫌われているスギは日本固有の樹木で、学名は、Cryptomeria japonica（クリプトメリアヤポニカ）「日本の隠された宝」という意味です。ヨーロッパの針葉樹はトウヒの仲間が多く、耐久性や品質は日本のスギには到底かないません。樹齢も 1000 年以上生きることが出来ます。その木をたった 50 年で伐採してしまうとは、なんと愚かな行為でしょうか。本当にいい材質の木になるには、最低 80 年、高級材として扱うには 300 年は必要だと、ある木工家の方に教えて頂いたことがあります。この日本の宝を世界中の人が欲しがるのは、時間の問題だと思います。一時的なウッドショックの値上がりに浮かれずに、将来を見据えて、良い木を育てていくことを目指していきたいですね。

群馬県沼田市　迦葉山 参道のスギ　樹齢 500 年